

宮城県業務説明会

電気

**Miyagi
Prefectural
Government**

電気職の仕事

上・下水道、工業用水道、ダム、学校及び庁舎などの県有施設
の電気設備の整備や維持・管理
防災システムの構築・運用等（河川流域情報システム等）

配属先

本庁各課（営繕課、設備課、管財課 など）
地方機関（ダム総合事務所、広域水道事務所、下水道事務所 など）

自己紹介 宮城県出身

H27.3月 **県外大学卒業（工学部電気電子工学科）**

H27.4～
R6.3 **国家公務員として勤務**

地方官庁で電気設備の維持管理を担当

R6.4 ～ **土木部 設備課 電気設備班**

県立高校などの県有施設の電気設備更新工事の監督員を担当

志望動機

なぜ公務員だった？

社会に貢献できる仕事は何かと考え、公務員には、生活の基盤となる施設の整備や維持管理など活躍の場があることを知り、公務員を選択しました。

なんで宮城県庁を選んだ？

地元の宮城県で働きたいと考え、宮城県庁を選びました。また、住まいを宮城県内で構えたいと考えていたため、転勤範囲が県内なのも理由の一つでした。

担当した仕事

土木部 設備課 電気設備班

私の所属している設備課では、県有施設の新築や改築、既存施設の更新工事を行っております。

工事の監督員として、現場で施工状況を確認したり、工場に行き資材の仕上がりの確認を行います。その他にも工事に必要な費用を算出したり、工事図面を作成しています。



昇降機更新工事の現場立ち合い

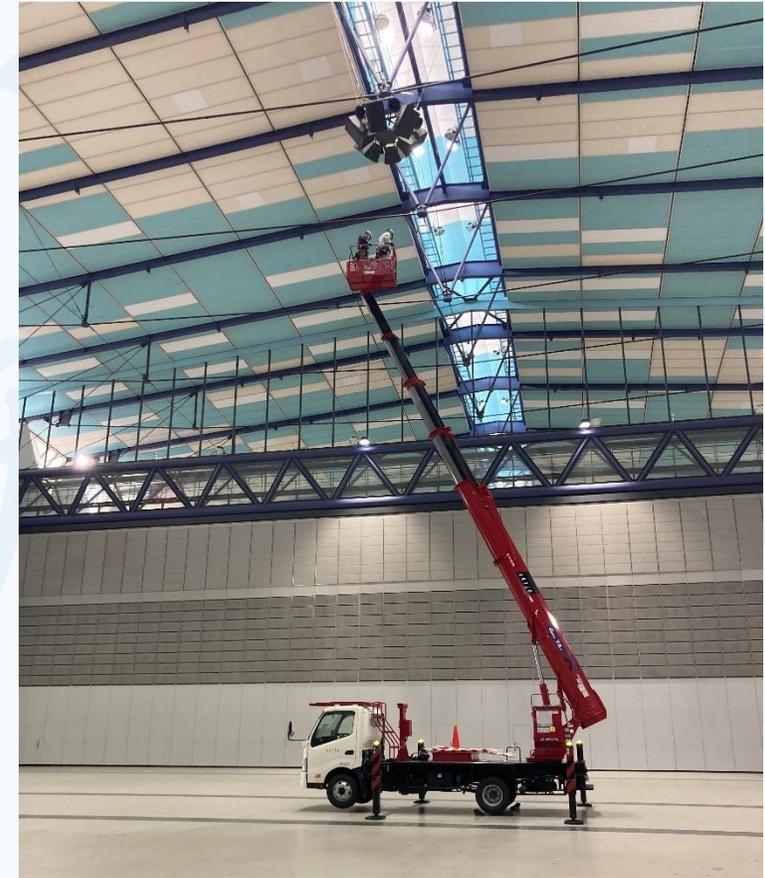


受変電設備工事の工場検査

大変だったこと

・ 工程調整に苦慮しました。夢メッセみやぎの音響設備工事を担当していますが、平日も休日もイベントで施設を利用する方がいるため、まとまった工事期間を確保することが困難でした。

・ 工事会社の方と相談して、工事の期間を短縮する方法を検討したり、施設の閑散期に施工できるように施設の管理者の方と何度も打合せをしました。



天井スピーカーの更新工事の事前調査

入庁前のイメージとギャップ

◆ 入庁前のイメージ

デスクワークがメインで外出することが少ない。
職員の年齢層が高く、気軽には相談しにくそう。

◆ 入庁してみたら・・・

現場を確認したり、打合せのために外出することが多い。忙しい時期はZoom等のWEB会議アプリを使用した現場確認も実施。20～50代と幅広い職員が在籍しており、雑談も交えながら技術的な相談もしやすい雰囲気。

前職とココが違った！ 前職の経験が役に立った！

きめ細やかな仕事が求められる

前職では利用者のほとんどが職員であるケースが多かったなので、自分たちの利便性をメインに考えていました。現在は県民の方が利用する頻度が高い施設が多いので、障害者の方や子供が利用することを考えながら細部まで配慮が必要となります。

使用する用語や手続きは共通する部分が多い

官公庁で使用する専門用語や工事で行う手続きについては共通する部分が多かったなので、抵抗なく対応することができました。

仕事をする上で心がけていること

仕事での悩みや疑問を抱え込まず、同僚や上司に相談したり、情報共有をこまめに行うこと。

抱え込んでしまった方が後々大変。

失敗したときや不安なときこそ早めの報告・相談が重要です。

メリハリをつけて仕事をする。

「明日できることは今日やらない」を目標に仕事をするようにしています。上司や先輩が帰るまで帰れないなんてことはありませんし、むしろ帰れるときは早めに帰るようにと声をかけてもらっています。

私の公務員試験対策

筆記試験

ホームページに掲載されている採用試験の例題・過去の出題課題を解くなどして試験対策をしました。また、国家公務員試験の過去問が掲載されている問題集を使用しました。

面接試験

パンフレット等を確認して業務概要を確認し、自身がやってみたい業務を明確にしておくことが重要だと思います。

みなさんへのメッセージ

電気職の仕事は安全・安心な県民生活を支える非常に重要な仕事です。

工事現場での打合せが多いので、培ってきた専門的な知識を活かすことができます。経験が少ない方でも、先輩職員が打合せに同行し、徐々にスキルアップすることができますので、経験の多寡を問わず大歓迎です。

私たちと一緒に、宮城の未来を描いていきましょう！